

<全体分析>

試験時間 120分

<p>解答形式 記述式</p> <p>分量・難易 (前年比較) 分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)</p> <p>出題の特徴や昨年との変更点 従来他学部と共通だった大問 I (英文解釈) が別問題となり、一つの素材文に 2 カ所引かれた下線を和訳させる形式に変わった。また大問 III (自由英作文) も外国語学部独自の設問に変更された。従来通り、試験時間から考えると、記述量は非常に多い。</p> <p>その他トピックス なし。</p>

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	英文解釈 (234 words) (A) (60 words)	コペンハーゲンの オペラパーク	阪大にしては抽象性が低く、英文の意味を把握すること自体は容易だったであろう。答案の成否を左右するであろうポイントは以下の通り。a host of A の意味把握 / 文脈からの hotspots の意味推理 / transform A into B の解釈と自然な訳出 / The latest addition to this ever-evolving urban landscape の自然な訳出 / be tasked with A の意味判断。	やや易
	(B) (47 words)		(A)に続く文脈中の英文であり、やはり意味の把握は比較的容易だったことだろう。上と同様、答案の成否を左右したと思われるポイントを列挙しておく。feature A の語彙知識 / At the heart of the green space is a glass structure(倒置文)の文構造の把握 / a glass structure の訳出 / expansive の語彙知識。	やや易
II	読解総合 (1262 words)	英語の変容 — その多様化と標準化	論旨のはっきりした英文で、大阪大学外国語学部の英文としては標準レベルの素材。和訳問題が減少し 1 問のみとなり、それ以外の 5 問が全て説明問題となったことで昨年度よりも難易度が増した。いずれの説明問題も該当箇所が広範囲に渡っているため、下線部の意味の理解は言うまでもなく、各パラグラフの内容理解が求められる。唯一の和訳問題である設問(4)は、構造的に難解な箇所は見られず、immediacy や channel, multi-layered などの単語の意味の理解がカギとなる。	やや難

Ⅲ	自由英作文	今の世の中で最も不足しているもの	「今の世の中で最も不足しているもの」を挙げ、さらに「不足していると感じる理由」と「その不足を補うために自分は何ができるか」を述べさせる問いであり、従来の出題形式に準じるものだった。外国語学部以外の自由英作文とは別の問題が初めて出題されたわけだが、複数の要求を示して文案を練らせるという点は共通している。しっかりした内容を持たせたうえで上記の要件をすべて満たそうとすると、80語程度という語数設定はかなり厳しかっただろう。多少の説明不足や説得力不足には目をつぶらざるを得なかったかもしれない。	やや難
Ⅳ	英作文	ライフスタイルの世界的平準化	外国語学部の設問としては易し目だった。日本語に仕掛けられた「論理の落とし穴」のようなものもなく、直訳で処理できる部分が多かった。下線部(3)のみ、「画一化」で筆が止まった人が多かったかもしれないが、uniform「画一的な」は決して難語ではなく、その名詞形を想起できることが望ましい。日頃から派生語にも目を配る学習を心掛けるべきだろう。なお、「画一化」は、たとえば increasing similarity among humans などと読み換えて表現することもできる。	やや易
Ⅴ	リスニング (533words)	スーパーマーケットはなぜ24時間営業を行うのか	例年通り、全て記述式の問題であった。設問(1)の中心となるのは光熱費と人件費であるが、一方の具体例だけを2つ挙げないように注意したい。設問(2)は候補4つのうち2つを記す。きわめて平易。設問(3)はどこまで記述すべきかやや悩ましい。設問(4),(5)ともに聞き取るべき箇所は明白。全体的に平易な問題であった。	やや易

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

基本的には外国語学部以外の学習対策と同じなので、外国語学部以外の分析シートの<学習対策>も参考にしてもらいたい。長文読解対策としては、まずは、一文一文を吟味しながら読み進めるという基本的姿勢をしっかりと獲得すること。そしてその延長線上にこそ、パラグラフごとの論旨を大きくつかむ、いわゆる速読的作業があるのだと心得てほしい。ここに至るには長期に渡る準備が必要なことは言うまでもない。英作文のレベル・傾向は外国語学部以外と同じと考えてよい。こちらもかなりの期間に渡る準備が必要となる。聞き取り問題はすべて記述式なので、英語を聞き取る能力だけでなく、聞き取った情報を迅速に適切な日本語にまとめる能力も重要である。